

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800358		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム ほのかの里		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80		
自己評価作成日	平成25年2月25日	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0175800358-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

原則や決まりごとをみだりに作るのではなく、一人一人が自由でありのままに過ごせることを心がけています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成25年3月7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ほのかの里」は栗山公園近くの住宅地に立地し、周囲にはホームセンターや商店があり、生活に便利な環境にある。建物は平屋建ての2ユニットで、屋内の共用空間は明るく、開放的である。平成16年に開設した当事業所は、隣接している法人の他グループホーム、デイサービス事業所との協力体制もある。法人の強力な運営体制の下で、職員の育成、また利用者が安心して暮らせる環境づくりに、運営者、管理者、職員は課題に向けて真摯な姿勢で取り組んでいる。昨年の外部評価の課題「目標達成計画」の運営推進会議の開催数を増やし、今後も多数家族の意見を収集して、会議の充実に向けて工夫を重ねている。介護計画作成は、見直しに「私の暮らし方シート」でモニタリングを行い、今後も全職員が参加できるモニタリングの方法を具体的に検討している。訪問診療での協力医とかかりつけ医の連携で健康管理も行き届いている。災害対策も万全にして、地域との協力体制づくりに向けてさらに働きかけている。栄養と豊富な食材を取り入れた食事は利用者の楽しみになっている。長年従事している職員が多く、利用者との関係の中で家庭的な温かい雰囲気、落ち着いた暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(A棟アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践しております。	地域密着型サービスの視点を加えた理念を居間に掲げ、家族や外部の来訪者にも分かるように意識化を図っている。気になる事例があった時は理念を確認している。職員は理念を意識して、利用者が楽しく過ごせるように笑顔で接している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方たちとは散歩の際などに交流することができます。	法人合同の夏祭りには、近隣の住民や子供が参加し、また町内会役員の手伝いもあり交流機会になっている。地域の文化祭に出かけ、芸能発表会を観覧している。散歩中や事業所前を通る住民と挨拶を交わし、近所の高齢者とは畑づくりで会話を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そのような機会はなかったため、今後の課題とします。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は7月と10月に運営推進委員会を行う事が出来ました。回を重ねる事によって、有益な集まりにする事が出来るのではないかと思います。	法人他グループホームと合同会議に、町内会や行政参加の基で、今年度は運営推進会議を3回実施している。各報告の他、サービス評価結果報告を行い、地震も含めて災害対策を討議している。家族の参加を働きかけているが1~2名の参加にとどまっている。	大まかな年間計画を立て、全家族への会議案内にテーマの意見を頂く工夫や、議事録の送付で家族の参加率を高め、関心が深まるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新の時などに役場に行く機会があります。また、認定調査の際に調査員の方が役場から来られ、様子を見ておられます。	町役場主催の研修会に、管理者や職員が参加しサービスの向上に努めている。運営推進会議に住民福祉課の担当者が参加しており、常に相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われておりません。日中は非常時以外玄関の施錠はせずに過ごしております。	身体拘束資料にある、11項目の「禁止の対象となる具体的な行為」を職員が見えやすい場所に掲示し、拘束の根拠になる理解が深まるよう検討している。利用者毎に拘束がないか、チェックシートで確認している。声が大きく、強い口調などに注意し、新しい入居者や職員採用時には特に施設長の指導もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	御利用者様の自宅や事業所内で虐待があるという話は聞かれておりません。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会はありませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行えていると思います。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪された際に、意見要望を聞く機会となっていると思います。	毎月の便りで個人の暮らしを報告し、家族の来訪時には率直な意見を頂けるよう対応している。頻繁に来られる家族から意見を聞いているが、遠のいている家族の意向の把握が難しい状況である。	具体的な項目で選択方式の家族アンケートを実施し、家族のささいな意見をも把握してケアに活かせるような取り組みに期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提案を発言しやすい雰囲気を作り、出された意見は極力反映できるよう努めております。	運営者や管理者は職員面談を特に行っていない。申し送りやミーティングの機会に、ケアの提案や作業効果について活発に意見を交換している。備品などで即決められない場合は運営者に諮り、現場の意向を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分に整備されていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日の業務の実情を踏まえた実践的な研修が内部研修として与えられたら良いと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、あまりないのが実情かと思いません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や困っている事に常に耳を傾けたいと思います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪の際や電話などで、困っている事に耳を傾ける機会を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度必要な対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所の手伝いや、もやしのひげ取り、掃除、洗濯物をたたむなどというお手伝いを、可能な方はなさってくださっております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて家族と連絡を取っておりますが、もっと積極的な関係づくりが必要かと思えます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪などによって、馴染みの人との関係は気付いていけているように思います。	入居前の近所の友人や職場で一緒だった仲間の来訪時には、茶菓子を出してゆっくり過ごせるように配慮し、近況報告で関係が継続できるように支援している。家族の協力で馴染みの場所に出かけている。また受診の帰りに職員と馴染みの所に立ち寄ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんの輪の中に入っている感覚を、レクなどを通して持つ事ができていると思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な相談、支援を行ったことはありませんが、今後機会があれば必要に応じて行いたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションを通じて、意向を把握できていると思います。	基本情報は更新時期に見直し、またセンター方式の「暮らしの情報シート」に情報を蓄積して介護計画に活かしている。日々の会話や問いかけへの反応から思いを把握し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に普段の会話の中から生活歴を把握し、本人の背景を尊重した支援を心掛けております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理をしない方が良い方には無理をさせず、出来る事は極力自分でやって頂いております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の会話から得た情報を基に介護計画を作成しております。	介護計画は6か月毎に見直している。「暮らしの情報シート」でモニタリングを行い、サービス担当者会議で確認し、それらを基に利用者や家族の意向を反映させて更新計画を作成している。今後はセンター方式のシートで全職員がモニタリングを行い、ケアの統一に向けて検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別記録を記入し、情報を共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生まれるニーズを察知し、柔軟な支援ができています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園や季節を感じられる場所などへ行く機会を作り、暮らしを楽しむ支援を行っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回、訪問看護師に体の状態を見てもらう機会があり、その他訪問診療を受けている方や、受けていなくても近くの病院でその都度医療を受ける機会を作ることができています。	協力医療機関の月2回訪問診療と週1回看護師の訪問がある。かかりつけの病院や専門的な他科受診には職員が同行し、各主治医に相談し健康を管理している。状況に応じては家族に結果を報告し、情報ノートで経過を把握している。	

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連絡を取りながら、身体的なケアを進めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入院された方はいませんでした。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り」については、今年度すべての御家族に意向を伺い、同意を得ております。	入居時に重度化や看取りへの対応方針を文書で説明し同意を得ている。主治医の判断の下で、訪問医療と家族とのチームワークで看取りを行った事例もある。今後は個人別の記録化で経過を把握し、職員間で看取り後の振り返りを考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段から、急変時の事を話し合う機会を持っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、6月と11月に避難訓練を行いました。	消防署立会いの下、法人事業所合同で昼夜を想定した避難訓練を実施している。訓練に住民の参加を呼びかけたが得られていない。災害時に備えて備蓄品類や発電機を法人事業所に整備している。職員の救急救命の訓練も随時行っている。	次回の夜間を想定した訓練には、役割を明確にし町内会役員や住民の参加を得ての実施に期待したい。また事業所内で地震のシュミレーションを行い安全の確認と、事業所内にも地震に備えて備蓄品類の保管を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉に配慮しつつ接しておりますが、申し送りの際などに個人名を出してしまうことで不快な思いをさせてしまっていないかという反省はあります。	施設長が中心となって言葉遣いや接遇の指導を行っている。職員は本人の職業や性格を把握するなどして、尊厳や誇りに注意をしている。個人の書類は事務室に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表す機会を極力作っておりますが、皆さん控え目な様子で、散歩に行く提案などをスタッフの側からしているのが現状です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力その人らしさを大切にしたいと思っておりますが、個人個人の「その日をどのように過ごしたいか」という思いを十分に把握できていないという思いもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服を着てしまう利用者さんに、せっかく備えてある新しい服が着れるよう促すなど、少しでもおしゃれを意識できるような支援を行っています。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には好きなものを選んで頂いたり、おやつ作りを一緒にするなど行いました。	メニューは法人本部で作成し栄養士が確認している。一食毎の食材数も多く、彩りや盛り付けも丁寧である。誕生日はお赤飯やちらし寿司、まぜご飯など本人が希望する献立である。生寿司パーティー、出張出前寿司、オードブルの他、季節の行事食、おやつ作りを一緒にするなど、豊かな食生活を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を毎日把握して、水分が十分取れる支援を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な人にはトイレの定期誘導を行っていますが、極力自立を促しております。極力紙パンツや尿取りパットを使わない努力はしてはみましたが、現状がバランスのとれた状態ではないかと思えます。	排泄チェックは誘導やトイレ介助の必要な利用者を中心に記録している。トイレ内はできるだけ同性介助とし、羞恥心に気をつけている。さりげない声かけでトイレ排泄を促して自立度を高めている。パット類の交換も本人が行っている場合がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて、食物繊維を摂取して頂いたりするなどして、便秘の予防・解消に努めております。最近、酒粕が便秘解消に良いという情報を得たので、これから試してみたいと思っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用するなどして、入浴を楽しめる支援を行っております。	入浴は日曜日を除く午後の時間帯で対応し、最低でも一人が週に2回は入浴できるようにしている。シャワー浴は必要に応じてその都度、支援している。職員2人介助や同性介助などを行い、安心、安全に配慮しながら気持ち良く入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子を伺い、休みたい方には休んで頂けるよう促しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬による症状の変化について、全員で気に留めるようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の嗜好を大切にしつつ、楽しみを作る支援を行っております。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やあずまやでのレクリエーションを行っているが、もう少し外出の回数も多くし、マンネリ化しない工夫が必要かと思えます。	行事的な外出では、天満宮のお祭りやお花見、紅葉狩りに出かけており、買い物は近隣のホームセンターにも行っている。散歩の途中に住民と会話をしたり、東屋での休憩時には歌を歌って過ごすなど、楽しい雰囲気を心がけている。少し足を延ばして栗山公園までゆっくり歩くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などの機会はあまり作れていないのが現状です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の要望も聞きながら、コミュニケーションを図れる支援を行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の悪さは皆さん特に感じられていないと思います。	家庭的な雰囲気のある玄関であり、居間に入るドアがガラス状で、出入りが見渡せる造りである。全体的に明るくゆったり感があり、リビングルームは2つの応接テーブルを囲み全員が座れるソファがある。洗面台の手拭きはペーパータオルを使用し、衛生面に配慮している。季節を感じる利用者手作りの作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さん居間で過ごされる事が多く、また、その時の時の気持ちに応じて自分のお部屋で過ごす事も出来、自由な雰囲気が作れていると思えます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器・衣服など、極力本人の馴染みのものを使用できる工夫をしております。	居室にはクロゼットやベッド、カーテンなどが備え付けられている。家具の置き場所は入居時に家族や本人と相談して設置している。好みの絵柄のカレンダーや神社の御札、家族の写真などが飾られており、本人が落ち着ける居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に暮らせる建物だと思えます。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800358		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム ほのかの里		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80		
自己評価作成日	平成25年2月25日	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御入居者様の表情やホームの雰囲気を見て頂きたいです。 職員の御入居者様への対応や声かけを見て頂きたいです。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0175800358-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年3月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(B棟アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が理念を理解し、実践しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りやクリスマス会、避難訓練など近隣住民の方々や町役場など参加していただけるよう、お声を掛けさせて頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームを訪れる御家族様や地域の人々が認知証について疑問や質問などある場合はホームの職員がその度説明しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価の報告をしたり、行事内容を説明、または意見などを頂いたりしております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場や地域のケアマネージャーなどと情報交換や相談など行なっております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を開催し、職員一人一人が理解し実践しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を開催し、虐待防止につとめております。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内に成年後見人制度を利用された御入居者様がおられ、スタッフの意識は徐々に高まってきております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時十分な説明をし、契約書に捺印をして頂いております。入居後も御家族からの不安や疑問点をその都度説明しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設置し、意見、要望があれば運営に反映させる準備しております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度カンファレンスを行い、職員の意見を話し合い運営に反映させております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り配慮しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人のケアの実際と力量の把握に努めております。また研修や勉強会を受ける機会をもうけております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通して他事業所の職員との交流を持つ機会をもてるよう配慮しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に御本人さまから困っていること、不安なこと、望んでいることなど御本人の負担にならないよう耳を傾け、関係作りにつとめております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に御家族様が困っていること、不安なこと、望んでいることをお聞きし、出来るだけ対応させて頂いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご本人様、御家族様が最も必要としていることを教えて頂き対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩ということを職員一人一人が意識し、御入居者様と接しております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と信頼関係を気づき、ともに御入居者様を支えております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームには御家族様以外にもご友人や親類の方など頻りに面会に来られております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御入居者様一人一人が孤立せず、御入居者様同士が関わりを持てるよう職員が間に入り支援に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された御入居者様の御家族様が何度かホームを訪問され他入居者様や職員と会話を楽しまれておりました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御入居時にご本人様や御家族様から生活歴を聞いております。また入居後も御入居者様や御家族様にお聞きすることもあります。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御入居者様一人一人のADL、QOLを把握しサービスに生かしております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御家族様が面会に来られた時や電話などで意見、要望を聞き、サービスに生かしております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様が面会に来られた時や電話などで意見、要望を聞き、介護計画に生かしております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや介護記録に職員全員が情報を共有できるようまた介護計画に生かせるよう対応しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や御家族様の状況により既存のサービスに捉われない支援を行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し活用できるよう対応しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族や御本人の希望に沿って対応させて頂いております。訪問診療を始めておりますので、入居時や入居後も希望があれば使用できるよう対応しております。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を始めており御入居様が安全で適切な看護を受けられるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	町立病院や訪問診療医と情報交換や相談をおこなっております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療を始め、ターミナルケアの実施をしております。入居時や入居後も御家族様と蜜に話し合い、訪問医を交えチームで取り組んでおり、本年度も1度ターミナルケアを行っております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問医や訪問看護師より応急手当や初期対応について職員一人一人把握しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震の際のマニュアルを作成しており、職員一人一人把握しております。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩ということを常に念頭に置き職員一人一人が対応しております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御入居者様一人一人の希望や思いなど出来る限り尊重できるよう対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御入居者様本意のサービスができるよう心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御入居者様が一日一日を自分らしく生活して頂けるよう心がけております。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御入居者様一人一人のADLを活かしながら職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御入居者様一人一人の栄養摂取量、水分量をチェック表を作り把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御自分で出来る方には声掛けし、御自分で出来ない方は職員が毎食後介助を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御入居者様一人一人の排泄パターンを把握し出来る限りトイレでの自立排泄を支援しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをおこなっており一人一人の排便パターンを把握し飲食物の工夫や運動を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り入居者様の希望にこたえられるよう支援しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御入居者様一人一人の生活習慣を把握し、気持ちよく眠れるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が徐々にですが薬の目的や副作用等を把握できるようになってきました。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御入居者様一人一人のADLに沿った支援を行っております。		

ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望があれば出来る限り支援に努めております。また、御家族様にも協力して頂き、出掛けられるよう支援しております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御入居者様数名は御自分でお金を所持し職員付き添いで近くのお店で買物できるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望があり、御家族の了解があれば支援させて頂いております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が御入居者様にとって居心地の良い場所であるよう生活観、季節感を取り入れております。また、職員も出来るだけ大きな声や音を立てずに対応しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御入居者様同士楽しく過ごせるよう配慮しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居後などご本人が使い慣れた物を持ち込んで頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や浴槽内に手すりを設置したり御入居者様の安全の為に新しくベッドを購入したりしております。		

目標達成計画

事業所名 ほのかの里

作成日：平成 25年 3月 21日

市町村受理日：平成 25年 3月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が現状では少ない。	運営推進会議を開催する頻度を多くする。	運営推進会議の年間計画を立て、昨年度よりもより多く開催できることを目指す。また、御家族への会議案内にテーマの意見を頂く工夫や、議事録の送付で家族の参加率を高める工夫を行う。	1年
2	10	御家族の意向などを深く汲み取り、反映させる機会が求められていると思う。	御利用者様の御家族向けにアンケートを作成し、御家族の意向を汲み取る機会を作る。	生活支援計画を郵送する際に、簡単に回答できるようなアンケートを同封し、御家族様に回答して頂く。	1年
3	35	非常災害時のための備えがホームの近くにないことから、実際に活用できるのか分からない部分がある。また、避難訓練の際、地域住民の参加がなかった。	非常災害時の備えをより具体的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害時を想定した避難訓練(発電機や備蓄品の輸送などを含む)を、年度内に一度は行う。 ・ホーム内に非常用のミネラルウォーター、非常食、発電機付き携帯ラジオなどを常備する。 ・火災を想定した避難訓練の開催を、地域住民に呼びかけ、参加して頂く機会を作る。 	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。